

松街街ま委第4号

平成31年3月28日



松戸市長 本郷谷 健次 様

松戸駅周辺まちづくり委員会
委員長 横 張

(仮称) 矢切の渡し公園計画の策定について (答申)

平成30年8月8日付け松街街第61号をもって諮問のありました2件のうち、「(仮称) 矢切の渡し公園計画の策定について」につきましては、市執行部より提示された(仮称) 矢切の渡し公園基本計画素案をもとに、平成30年8月8日開催の第11回松戸駅周辺まちづくり委員会及び平成30年12月26日開催の水・みどり・歴史部会において検討を重ねてまいりました。

まず、本公園計画地を含む矢切耕地につきましては、良好な景観や土地利用形態が、松戸市のみならず首都圏近郊エリアにおいても極めて貴重な存在であること、「歴史」「文化」「自然環境」などの多面的な価値を持つことなど、松戸市としての魅力やアイデンティティを象徴する財産としてとらえるべきものと考えます。

しかしながら、外環道の開通を契機とした開発圧力の高まり等に起因する利用形態の無秩序な流動化が近い将来において懸念されています。適切な立地誘導を図り、当地の価値を未来に向けて維持・継承し更に高めていくためには、行政の積極的なかかわりが求められます。

以上の現状認識をもとに、(仮称) 矢切の渡し公園計画の策定について、下記のとおり答申いたします。

記

1 矢切耕地全体のあるべき将来像について

(仮称) 矢切の渡し公園計画の前提となる、矢切耕地全体のあるべき将来像については、当該地域の農業従事者等との連携を図るとともに、松戸市全域にかかわる都市計画に基づき、矢切耕地の魅力・価値の維持・継承に向けた具体的な当地の保全整備計画を策定されたい。

2 公園整備計画について

(仮称) 矢切の渡し公園計画については、矢切耕地全体にかかわる上位計画との整合を図るとともに、関連施策とも連携し、地域の将来像を実現するために必要となる「公園としての役割」を整理したうえで、その整備計画を策定されたい。

3 当面の公園整備の進め方

上記の上位計画が策定されるまでの期間、地域振興等、当該計画地の活用がすみやかに求められる事案については、上位計画との整合を常に留意しつつ、慎重な検討のもとに行われたい。

以上

矢切耕地は、江戸時代から現代に至るまで、地元農家の尽力のもと一貫して高品質な農産物を供給し続けており、「矢切ブランド」として松戸のみならず広く首都圏で認知されることとなっています。また、東京都心から 15km 圏内に残存する唯一の広大な田園地帯として、周囲を縁取る江戸川河川敷の緑や斜面林等とともに、景観保全および生物多様性保全の面からも、首都圏全体にとって欠くべからざる緑地となっています。今後も矢切耕地が市民の貴重な共有財産として維持・継承され、その価値が矢切地域から松戸市さらには首都圏全体に波及していくよう、市民と各行政部門が一丸となり、様々な施策に取り組まれることを強く希望します。